

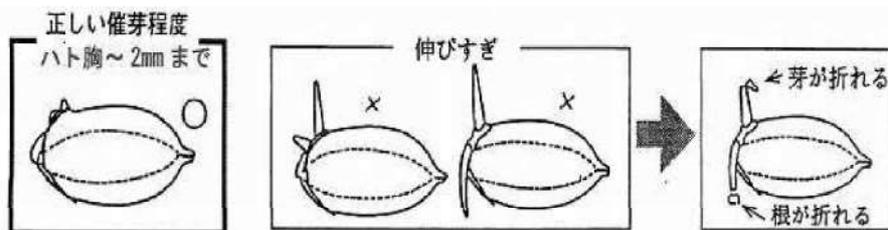
★まもなく水稻の「は種作業」が始まりますが、天候が不安定です。焦らず計画的に作業を進めてください。

1 育苗ハウスの準備

- (1) ハウス内の乾きが不十分なまま作業を行い、地温が低い状態で育苗箱を設置した場合出芽が遅れます。ハウス内の地温を確保するために置き床の乾燥促進を心がけてください。

2 発芽を均一にするためには

- (1) 種籾袋には袋の5～7割程度の籾量にとどめる。入れ過ぎに注意！
- (2) 種子消毒する場合は、使用基準を厳守する。
- (3) 種子浸漬の目安…
 水温は11～12℃とし、浸漬期間は6～7日（直射日光を当てない）
 8℃以下の低水温や15℃以上の水温にならないように注意する。
 種子消毒後の浸種は、2日間水替えを行わない。
 その後は酸素供給のため、1～2日に1回水を入れ替える。
- (4) 催芽の目安…催芽は新しい水で行う。温度は32℃に保ち、20時間前後で仕上げる。
- (5) 催芽の長さはハト胸から2mmまでとし、必ず催芽状況を確認する！延びすぎると芽が折れ、出芽の遅れ、バラツキの原因となる。



3 「は種量」を守りましょう ～事前に計測を～

- (1) 催芽した種籾を均一には種するため、籾表面の余分な水分を取り除く。
- (2) は種前に必ずカラ箱には種し、計量カップ等で「は種量」の調整を行う。
 籾の乾燥程度によって「は種量」は変わるので、は種機の調整を行う。
- (3) 床土、覆土量の調整を適確に行う。

表 育苗様式とは種量の目安

	中 苗		成 苗
	箱マット	型 枠	みのる成苗ポット
催芽籾 (ml/箱)	150～200	150	70程度